



2025年10月9日

各 位

会 社 名 株式会社クリーク・アンド・リバー社  
代表者名 代表取締役社長 黒崎 淳  
(東証プライム コード番号 4763)  
問合せ先 執行役員 経営企画グループ  
グループマネージャー 枅尾 有紀  
(TEL:03-4550-0008)

## 2026年2月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2025年4月10日に発表いたしました、2026年2月期第2四半期（中間期）の連結業績予想と、本日公表の実績数値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2026年2月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績値との差異 （2025年3月1日～2025年8月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想（A）	百万円 28,000	百万円 2,100	百万円 2,100	百万円 1,350	円 銭 63.23
今回実績（B）	28,092	2,138	2,112	2,214	104.72
増減額（B－A）	92	38	12	864	
増減率（％）	0.3	1.8	0.6	64.0	
（ご参考）前期第2四半期実績 （2025年2月期第2四半期）	25,836	2,195	2,265	1,470	68.22

#### 2. 業績予想の差異の理由

当中間連結会計期間におきましては、売上高、営業利益及び、経常利益については、概ね業績予想の通りとなりました。一方で、親会社株主に帰属する中間純利益は前回発表予想を大きく上回る結果となりました。これは、2025年3月に連結子会社化した株式会社 T&W オフィスを持株会社とする高橋書店グループ5社（以下、高橋書店グループ）の事業における季節的な要因によるものであり、当該影響を前回発表予想に織り込めていなかったことによるものです。

高橋書店グループは、手帳や日記、カレンダーなどの企画・編集・出版を主要事業としており、出版業界特有の商習慣により当第2四半期は出荷した商品の返品が集中する時期となるため、営業損益及び経常損益において一時的に赤字となっており、それに伴い高橋書店グループの株式取得時に同グループにて計上した税金費用が大幅に減少することとなり、親会社株主に帰属する中間純利益においてはプラスに寄与する結果となりました。

なお、高橋書店グループは、通期では安定した収益確保を予想しており、第3四半期以降は税金費用の増加が見込まれることから、2026年2月期の通期連結業績予想につきましては、2025年4月10日に発表しました数値を据え置いております。今後、通期連結業績予想に修正が必要な状況が生じた場合には、速やかに開示いたします。

※上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想と異なる場合があります。

以 上